

## ◆ 1. プラットフォーム設立の概要

### （1）プラットフォームの形成目的と目指した状態

形成目的：孤独・孤立支援に関するテーマ横断・ワンストップ型の協議体の設置。  
 目指す状態：行政、市内相談先、NPO法人等の市内の支援団体が、孤独・孤立問題についてワンストップで検討し、横断的に連携することができる協議会の設置を目標とした。

### （2）プラットフォームの体制

・新たにプラットフォームを新設する予定。

#### 【主な構成組織】

・主な構成団体は、市役所関係課、市内支援センター、市内NPO団体等であり、孤独・孤立支援に係る各分野で活動している団体となった。

### （3）プラットフォームで主に協議したこと

- ・第1回準備会 議題
- 1. 本事業の説明（連携PFの設置について）
- 2. 孤独・孤立支援に関する鶴岡市内の状況と分析結果
- 3. 各団体での現在の相談体制や支援内容の紹介

### （4）プラットフォーム形成に向けて工夫した点、苦労した点

・連携プラットフォーム及び準備会の参加に向けては、担当課（地域包括ケア推進室）より直接各団体に対して今回の取り組みを説明し、理解いただいた上で参加を了承。  
 ・参加団体の選定に際しては、庁内の孤独・孤立対策関係課から、市内における核となる関係団体を紹介した。

### （5）本年度の成果と次年度に向けた動き

・鶴岡市では市の地域福祉計画において、「支援の届いていない人、手助けを求められない人や世帯の課題の早期発見・早期対応に取り組むこと」に重点を置いており、これに基づき自殺対策、ひきこもり等の各分野において、自殺予防対策ネットワーク会議、ひきこもり支援連携会議、地域福祉計画策定協議会（令和3年度まで）を設置している。  
 ・本事業を契機として孤独・孤立に関する庁内・関係団体を巻き込んだ横断的な協力体制を展開すること、市内の孤独・孤立状態にある方々の実態把握に取り組むことにした。  
 ・準備会において参加者団体の意識醸成を行うと共に、孤独・孤立問題に対する共通認識を共有した上で、秋以降の連携プラットフォームにおける課題解決に向けたアイデアの検討や連携体制の構築を実施していく予定である。また、テーマや連携体制の拡大に応じて、連携プラットフォームのメンバーを追加していくことも検討している。

連携プラットフォーム設置：2023年9月設置

## ◆ 2. プラットフォーム形成に向けた工夫

### （1）プラットフォーム関係者への認識・課題共有

・認識共有については本事業の担当課である地域包括ケア推進室より各団体に向けて事業の概要及び連携プラットフォームへの参加打診、準備会への参加を促した。  
 ・孤独・孤立対策支援については分野横断的な課題が多くなっているため、担当課より関係各課への説明を実施し、連携プラットフォームへの理解を促した。

### （2）孤独・孤立対策に関する住民への周知・意識付け

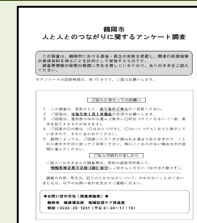
・住民への周知・意識付けについては、孤独・孤立問題に関するアンケート調査にて市民向けオープン調査の実施を通して周知した。  
 ・SNSや市のHP、市報を用いて上記オープン調査を告知すると共に孤独・孤立支援に関する事業の実施について、住民への情報発信を行った

### （3）試行的事業の実施

鶴岡市においては、下記の通り3つの試行的事業とを実施した。

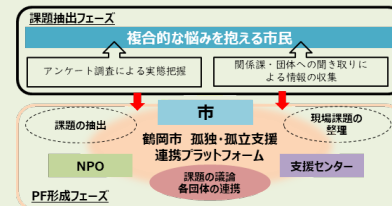
#### 試行事業1. アンケート調査による実態把握（市民調査）

・市における孤独・孤立の現状を把握するために、国が実施したアンケートを踏襲した形式の調査を市民向けに実施した。  
 ・できるだけ多くの回答が集まるよう、郵送に加えてWebでの回答フォームも準備した。  
 ・無作為抽出による郵送でのアンケート回収と合わせて、同様の内容に関するwebページ上でのオープン調査も実施し、市報、HP等で情報発信を実施した。



#### 試行事業2. 設立準備会の開催

・鶴岡市内における孤独・孤立に関するアンケート調査の結果と、各団体における内容をすり合わせて協議できるよう準備会のプログラムを構成した。  
 ・また、当日は市の福祉アドバイザーであり、地域福祉を専門とされる大橋謙策氏にご講演をいただいた。



#### 試行事業3. 住民向けチラシの制作・配布

・孤独・孤立に関する取り組みを広く住民に周知するため、紙媒体の周知ツールとして孤独・孤立の相談窓口等を掲載したチラシを作製し、関係各課並びに関係団体へ頒布した。

